

1926年3月26日(4)

(可認物便郵種三第)

號五十六百六十八

新報

正十五年三月二十六日

愈々完成近い行啓道路



孔子の戀愛觀

(中)

秋

梧



み な み

用紙ハガキ別名本
鶴保月計質銀牌迎
當季新歌歌局迎

仔細に考究するに、あれ程愛と敬虔との充實を極めたとする「仁」の理想を追求する孔子が女性を劣等なものと見、女性の人格を蔑視し、や何の理屈も持たない利害の如きは、必ずしも心有るものとは、どうしても私等には首肯することが出来ない。孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふこの意味で孔子が「唯女子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。されば、孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。されば、孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。

次して女子を輕侮した意味でないとは、何の如きである。これを近づければ、即ち、この意味で孔子が「唯女子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。されば、孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。

夫婦別離の如きは、必ずしも心有るものでは無い。されば、孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。

夫婦別離の如きは、必ずしも心有るものでは無い。されば、孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。

夫婦別離の如きは、必ずしも心有るものでは無い。されば、孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。

夫婦別離の如きは、必ずしも心有るものでは無い。されば、孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。

夫婦別離の如きは、必ずしも心有るものでは無い。されば、孔子曰く「君子と小人也難矣」と云ふのは、必ずしも心有るものでは無い。

東京駅前から宮城へ向かうて、南山に通する行啓道路は昨年から施工中の感じよ／＼、現在は東京駅前より宮城までを望むた行啓道路。

近畿にて工事が進んだ、これが全く完成せば東京駅前より宮城までを望むた行啓道路。

支を残して来る。其が運営者が最も意図する事は出来ない。本當の意味で手を携へる事が出来なくなるのである。

一回田五目

主義をとつておらず自己と運営者が一つになる事が出来ない。本當の

用として、内閣久留米ヘセ文、市

草に共進會の文字、櫻の花を現は

した色燈籠七十を取り合せた、櫻

の上には布袋の櫻のル拿、市

マークを入れた旗などを飾り、開

前街路一面に建設する計畫

▲ 楊町では、共進會の町内装飾

馬鹿の馬匹は三百頭、内浦の馬匹

五百五十頭、内軍馬は五六千頭

周辺

▲ 楊町の發式で、二級勳三

臺灣の馬匹は二百頭、内浦の馬匹

四百五十頭、之れに比すれば

日本の馬匹は、お話をならぬほど

少數である。併し最近に於て質は

大に改善されたやうである。

▲ 我が軍中に於て、共進會が組織

馬匹は、常に馬の字を見ると、

馬の字が氣にくはぬ

一見して上が大きくなる。併し

馬の字が氣にくはぬ

馬の字が氣にくはぬ

馬の字が氣にくはぬ

胸には毛皮の腰帶である。國へ贈る度には一枚交換する。

▲ 同君

金とな

國家規

として

肉には

胸には

胸には